

# ICC

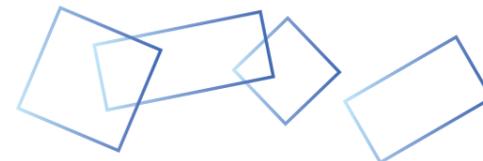
冬

WINTER  
2015

公益財団法人  
国立京都国際会館広報誌

# Kyoto





## 期待される 京都での ユニークベニュー

**久保** 多方面に知的刺激を与えるMICEのCにあたるConventionをどう推進するかは一つの大きな課題で、政府としても昨年、MICEについて一定の方針を出し、「グローバルMICE戦略都市」として京都市を含む5都市、「グローバルMICE強化都市」を2都市選定しました。MICEの外国人専門家を各都市へ派遣するなど集中的な支援を行っています。誘致に必要な豊富な知識、経験、国際的な人的ネットワークを持つ“MICEアンバサダー”も選定させていただき、MICEそのものを業界関係者、自治体関係者にご理解いただけるよう、MICE開催の意義に関する普及・啓発、MICE開催地としてのPR等の活動をして頂いています。また“ユニークベニュー”も大変重要で不可欠の要素です。レセプションや国際会議、ミーティング等もホテルの宴会場や会議室より、あっと驚くような場所で開催できれば面白いのではないのでしょうか。京都であれば普段は入れない非公開のお寺の本堂等に国際会議の外国の方々を迎えていただく、なかなか見られない貴重な美術品を間近で見られる等の協力が今後のユニークベニューの開拓には求められます。

**木下** 国内的には2019年にはラグビーワールドカップ、2020年は東京オリンピック・パラリンピック、そして2021年には関西ワールドマスタースゲームズと続きます。2019年の国際博物館会議誘致に向けても昨年12月23日に京都市内でシンポジウムを開催し、立候補書類（ビッドペーパー）も提出して6月のパリの決戦投票に向けて精力的に取り組んでいます。ステークホルダーの面でも業界の各分野が連携する環境も整ってきており、京都では博物館や社寺の夜間特別公開など具体化への動きがあります。このようなMICE戦略の方向性も見えてきたところで、今後どのような貢献が考えられるのでしょうか。

**久保** 日本に来る外国人の多くがまずは東京を中心に訪問します。しかし日本各地には素晴らしい魅力があり、東京以外も訪ねて交流や産品購入などをしていただけるように各地域が魅力を発揮する動きに取り組んでいただければ、MICEの誘致・開催も東京だけではないという外国人の認識へつながります。特にパラリンピックの重みは大きい。MICEあるいは国際会議や関連事業がそこに波長を合わせれば、日本で関係する会議開催にもつながり、さらに文化プログラムとの実行等を組み合わせれば面白いことも展開できるのではないかと思います。

## 誘致・開催に欠かせない 文化プログラムの重要性

**木下** 日本でのMICE開催には、他国にはない安心・安全が選択基準の一つになっていると考えます。もう一つは日本文化の吸収です。オリンピック憲章の中にもスポーツと同時に文化、芸術も語られていますが、古典的芸能、華道や茶道などの伝統文化、また外国人が関心の高い“禅”への関心は今後も伸びていくと思われるので、オリンピックを機に、いろいろな開催会議や催事を念頭に置いていただくことも重要です。

**久保** 文化プログラムはMICEと親和性がある部分で、日本でなぜ今その会議を開催するのかということにも結びつきます。オリンピック・パラリンピックと文化プログラムは、日本の各地域の魅力発信を含めた地域活性化につながるの、京阪神または京都が先行的なプログラムを提示されてはいかがでしょうか。

**木下** 国立京都国際会館は、耐震補強工事も無事終了しました。今後、日本国内の他の国際会議場も維持管理が重要な課題に

なると予想されます。整備された施設とその周辺に存在する素晴らしい財産を活かし、全国の会議場の手本になるべくがんばろうと職員にも言っています。

**久保** 京都は観光において、世界でもトップクラスのブランド力があります。MICEとしても、日本をリードする京都国際会館という立派な施設があり、観光資源も一番恵まれているところなので、「また京都が誘致成功したのか」と他都市が羨む成果を挙げて京都が日本のMICE誘致の牽引役を果たしていただくことを強く期待しており、観光庁としてもこれを後押しして参りたいと考えています。

**木下** そのためには京都はアクセスをもう少し強化すべきです。関空とどうつながるかという議論を活性化し、アクセス問題も含めて取り組みたいと思っています。

**久保** 空港との連絡も国際会議の開催には必要不可欠です。交通サイド、旅行関連のサプライヤーなどとも連携を強めれば、一層強力なMICE地域になります。

**木下** 迎える側の市民にも教育をしっかり行い、MICEに協力できる体制を作ろうと言う記述が「京都市MICE戦略2020」にもありましたが、そのあたりは全国の先例としても我々がみなさんに使っていたような京都モデルは提示できると思います。

**久保** 京都には十二分にその素材があるので期待しております。

### インタビュー●木下博夫

1943年生まれ。国土事務次官、阪神高速道路(株)社長等を経て2012年より国立京都国際会館館長・常任理事を務める。

アジア諸国はじめ世界各国でもMICE(※)誘致に積極的な動きが見られる中で、我が国では、「日本再興戦略」において「2030年には、アジアNo.1の国際会議開催国として不動の地位を築く」との目標が掲げられ、国を挙げたMICE誘致への取組みが活発に行われています。関西、京都、そして国立京都国際会館が世界に打ち勝つためにさらに強化していくべきテーマ、方向性について、MICE政策を推進する観光庁長官の久保成人氏にお話を伺いました。

※MICE: Meeting, Incentive, Convention, Event&Exhibition

## 国際競争力の強化による MICE推進への実現

**木下博夫館長(以下、木下)** 円安や消費税免税制度などの影響からここ最近、関西とりわけ京都は外国人の入浴が増加し、観光収益でも相当な伸びを示しています。その中で、観光庁が推進される国家戦略としてのMICEは観光とは異なる知的レベル、国際交流が求められますが国内会議、国際会議等を通してMICEの現況からお聞かせいただけますか。

**久保成人氏(以下、久保)** 国際観光は様々な要因が重なり、全国的にも好調な状況で多くの外国人に訪日いただいています。殊にMICE分野では、新たなビジネスチャンスやイノベーションなどプラスαの意義を持ち、そういった位置づけのもと、政府も推進しています。開催都市にとっても国際競争力、都市のブランド力が向上する都市戦略としてMICE誘致は意義があります。現況としては、世界全体の国際会議開催件数はここ10年で2倍近く増えました。特にアジア大洋州地域においては、急速な経済成長を背景に開催件数の伸びは高くなっており、今後も更なる拡大が見込まれます。日本の開催件数自体も、1991年131件、2003年209件、2013年342件と増加し、直近では2年連続でアジアNo.1の開催件数であることを誇りに思っておりますが、アジア大洋州地域におけるシェア自体は、この20年で5割から2割5分と年々低下しています。中国、韓国、シンガポール、オーストラリアなどのアジア大洋州地域の主要国もMICEに価値を見出し、相当なエネルギーを注いで誘致、開催に取り組んでいることから、日本はMICE誘致の能力をさらに高め、国際競争力を強化していかなければならないのが現下の認識です。

**木下** MICEへの理解、コンセンサスがまだ定まっていないように感じます。観光の一部という捉え方で集客、交流の点ではMICEに相通じますが、日本の新しい発展には従来のように外国人に来ていただき、買い物をしてもらうだけでなく、将来にわたってのプロトコルと実績が国際社会の中で重要なものを創り出す会議をしつらえとか、新製品の商談をする等、これは国全体の大きな国家戦略の一つです。

# 会議・展示会開催に向けて期待される京都の在り方

## MICE戦略における日本の役割と課題



# Interview 巻頭 インタビュー



Shigeto Kubo

久保成人氏  
観光庁長官

1954年大阪府出身。1977年京都大学法学部を卒業後、運輸省に入省。運輸省運輸政策局政策課企画官や大臣官房文書課企画官、近畿運輸局企画部長、鉄道局総務課鉄道企画室長、航空局管制保安部保安企画課長などを歴任。2001年に国土交通省大臣官房広報課長に就任後、海事局海事産業課長、鉄道局幹線鉄道課長、大臣官房参事官(人事)、大臣官房人事課長、航空局監理部長、鉄道局次長、海上保安庁次長を経て、2010年に国土交通省鉄道局長。2012年国土交通省大臣官房長を経て2013年8月より観光庁長官に就任。

# CLOSE-UP

## 国立京都国際会館が 取組む 「安全&快適」

平成23年2月24日より開始された耐震改修工事は、3年の月日を掛けて平成26年10月に完了しました。昭和41年(1966)に誕生した当館は、これまでも順次改修、補修を行ってきましたが、今回の大規模改修工事で全館内の耐震補強は終了します。この工事を機に、当館の会議場は様々な機能がアップしました。

今回の工事で最大の特徴は、会議場をご利用いただきながら行う“居ながら改修”。会議やイベントは通常通り開催する中で、ご来場者の皆様には工事でご不便をお掛けしましたが、ご協力をいただきながら予定通り3年間で改修を終えました。

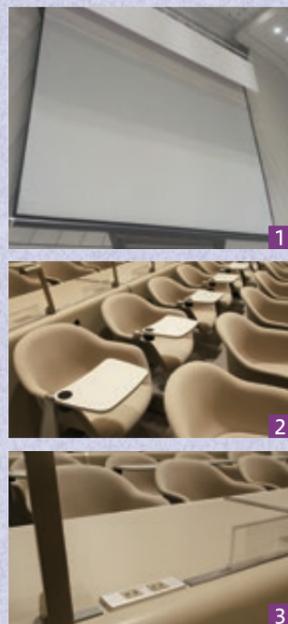
そこで最新の耐震補強・不燃性素材でリニューアルし、より安全に心地よくご利用いただけるようになった国立京都国際会館のMain Hall、Room A、外壁(外観)、Room B-1/B-2をご紹介します。

### Main Hall

高さ15mの吹き抜け天井と広がりのある台形の会議場は2,000名収容できる日本で唯一の国連方式の国際会議場です。

今回の改修工事でより便利に効果的にご利用いただけるMain Hallの設備

- 演出パトン(※)増設でより多彩な照明演出が可能に！空間を最大限に生かした華やかな演出ができます。
- 固定席のリニューアル  
随員席にサイドテーブル(写真②)、卓上コンセント(写真③)の設置、また座席がスライド使用で座りやすくなり、椅子の取り外しで車いすの会議参加も可能になりました。
- 大型スクリーンを常設化(7.8m×10.5m)(写真①)快適なプレゼンテーション環境が提供でき、迫力ある映像演出も可能です。
- 照明のLED化により省エネ化を推進  
※パトン=幕や照明、舞台上で上下する道具など様々なものを吊る棒



天井は特注のアルミ銀箔 前衛アートのような足組



全座席を取り外したホール

### 外壁(外観)

すべての外壁面は足場を設置して調査し、診断によって改修工事を実施。手すりの新設、側面のPC瓦の改修、防水など耐震のためのコンクリート補強に重点を置いています。また改修工事は“復元”にこだわり、設計者が当時に見た姿にできるだけ戻すことに努めました。



壮麗な外観の足組

手作業による外壁の取り付け



### Room A

政府間、国際機関会議に利用される会議場で、馬蹄形やシアター形式などの多様な座席配置が可能。収容座席は最大約550席で上階の傍聴席は222席あります。この馬蹄形の会議場議席をイメージしたものが京都国際会館のシンボルマークになっています。



耐震補強用鉄骨制震パネル



耐火性の床で安心安全

#### Room AとRoom B-1/B-2のリニューアルポイント

- Room Aの常設スクリーン(H5.0m×W8.8m)と演出パトン新設
- 場内照明のLED化(省エネ化と共に明るさをアップ)
- 天井、床を新設
- 壁面の織物壁装を新設(格調高い品格を維持)
- 天井、壁内の空調ダクト撤去新設(快適さのレベルを向上)

### Room B-1/B-2

会議、分科会など多彩なニーズに対応できます。青の色調のRoom B-1は100~250名、朱の色調のRoom B-2は72~160名まで収容可能で、それぞれレイアウトが変更できます。



## Main Hall・Room A・Room B-1/B-2の 見えない安心・安全

- 会議場内の壁面に地震による振動を低減させる「制震パネル」
- 壁の耐震性能を高める鉄骨やコンクリートを補強する「RC補強壁」「壁 補強鉄骨」
- 地震などで建物の変形を防ぐ補強材「床補強ブレース」
- 燃えにくい不燃性素材を使用した壁紙等、内装の改修



### 工事現場より

#### 先人の技との出会いに感動

改修工事で目にした、建設時に京都国際会館建設に導入された資材や技術は、現代でも通じる最高ランクのもので、先人の高い技術力、当時の資材の贅沢さには感動しました。また今回の工事は耐震改修と“復元”がテーマです。壁紙や絨毯などを昔のように美しく蘇らせる上では入手不可能な資材もありましたが、京都の高い技術を持つ企業や職人さんのおかげで復元できたものもあります。改めて京都の歴史と伝統工芸の力を実感した工事でもありました。



コツコツ仕上げ (ハンマーの叩き出しで岩肌調の壁面を作成)

## ミャンマー 国際会議場訪問

—新たな国際貢献のはじまり—



2014年ASEAN議長国として、主要国首脳会議やASEANを中心とした関連会合等、数々の国際会議を成功裏に終えたミャンマー連邦共和国を昨年9月に訪問しました。

日本で最初の国立の国際会議場である国立京都国際会館の半世紀に及ぶ会議場運営のノウハウを提供することにより、ミャンマー国際会議場(MICC)の管理運営に貢献することは国際会館としての新たな役割と考えています。今後、MICCの職員が持続可能な会議場運営ができるよう、国際会議運営の全体の流れ・ロジに関するノウハウを支援していく予定です。



左 ジン・ヨー 運輸副大臣  
右 当館館長 木下博夫

## 京都国際会館 主催イベント

### 開催報告

建築シリーズ2

## 公共建築の 長寿命化を考える

2014年11月17日(月)13:00~17:00



公共建築物は、街づくりや街並み形成を先導する役割とともに、その施設を利用する人の視点に立って、快適、安全でかつ効率的な運用が求められています。そこで、当館は、建築シリーズ第2弾として、講演会と館内・庭園等見学会を実施しました。当日は、約300人の参加者の皆様と、公共建築のソフトとハードの両面から様々な諸課題を考えるととても貴重な日となりました。

## 平成26年度 国際学生交流会

「京都で飛躍するグローバル人材」  
～京都の大学、京都の企業だからこそできる～

2014年11月22日(土)13:30~18:00

現在京都で勉強している外国人留学生、日本人学生、地元の企業・教育関係者が、「国際化」「地域貢献」「キャリア形成」などをキーワードに討論し、交流を深めました。基調講演ではチョコレート販売会社の代表取締役吉野慶一氏より、カカオ産地のインドネシアで従来のフェアトレードとは異なる取り組みや、自分の強みの活かし方などが語られました。ワークショップではテーマを決めて参加者それぞれが自由な意見交換をし、耐震改修されたMain Hallを見学後は宴会場さくらで交流会が行われ、参加者同士、会話も弾み、国際交流の楽しいひと時となりました。



2015年  
1月~6月

## 開催予定のイベント・会合一覧

(2015年1月1日現在)

日程	催事名	人数
1月10日~11日	第18回日本病態栄養学会年次学術集会	5,000人
1月22日~25日	公益社団法人日本青年会議所2015年度京都会議	14,000人
1月30日~2月1日	第38回日本眼科手術学会学術総会	4,000人
2月5日~6日	第53回関西財界セミナー	450人
2月7日	第6回KYOTO地球環境の殿堂表彰式 京都環境文化学術フォーラム	1,000人
2月16日~18日	第45回日本心臓血管外科学会学術総会	2,000人
3月5日~6日	第51回日本腹部救急医学会総会	2,000人
3月18日~19日	2014 TPM Awards Ceremony	500人
4月11日~13日	第29回日本医学会総会2015関西	30,000人
4月16日~17日	第89回日本感染症学会学術講演会	2,500人
4月26日	統合医療シンポジウム	1,200人
5月13日~15日	日本顕微鏡学会第71回学術講演会	1,000人
5月25日~29日	第15回国際放射線研究会議	1,200人
6月15日~18日	第25回関西高校模擬国連大会	300人
6月20日	平成27年度公益社団法人京都府看護協会定時総会	800人
6月21日~24日	第7回国際新興・再興豚病学会	800人

※TPM(Total Productive Maintenance)  
生産効率を極限まで高めるための  
全社生産革新活動

ピックアップ  
イベント

※参加者300名以上の会議(参加者数は概数)

### ピックアップイベント

## 第29回日本医学会総会 2015関西

4月11日(土)~13日(月)

“オール関西”で開催が決定した「第29回日本医学会総会」は、「医学と医療の革新を目指して—健康社会を共に生きるきずなの構築—」をテーマに、大学・病院の勤務医、開業医、医学生、多くのメディカル・スタッフ、そして一般市民が集い、医学・医療が直面している課題について議論されます。

また、この「第29回日本医学会総会」は2014年10月にメインホールを含め全館の耐震改修工事を終了した京都国際会館の本格的なこけら落としの機会と位置付けております。参加者は3万人を超えると予想されており、会議運営において新しいスタイルづくりがされるよう取り組んでいく所存です。

# 歴史箱

ICC Kyoto アルバム

2011  
年

## 第15回ILOアジア太平洋地域会議 (ILO APRM)



2011年12月4日～7日の4日間、国連の専門機関であるILO（国際労働機関）の第15回ILOアジア太平洋地域会議（ILO APRM）が当館で開催されました。全ての人が自由、公平、保障、人間としての尊厳が確保された労働条件を享受する“ディーセントワーク（働きがいのある人間らしい仕事）”の達成のため、これまでに成し遂げた進展を検討し、今後4年間の当該地域での活動方針を決定することを目的として開催された本会議は、1968年の第6回会議以来43年ぶりの日本開催で、ILO加盟国の内、アジア太平洋地域に属する約40の国・地域の政労使の代表約500人が参加しました。

2007年の金融市場の混乱以前より生じていた世界的雇用危機がさらに加速する、きわめて重要な時期に開催された同会議の開会式では野田佳彦総理大臣、小宮山洋子厚生労働大臣による講演が行われ、その他、東ティモール民主共和国のジョゼ・ルイス・グテレス副首相、アラブ労働機構（ALO）のアハマド・ルクマン事務局長や東南アジア諸国連合（ASEAN）のスリン・ピッサワン事務総長、ILOのファン・ソマビア事務局長による演説も行われました。



## 京都国際会館は、2016年の50周年に向けて 装い新たにリフレッシュしました。

平成26年6月より正面玄関の外壁改修工事を実施しておりましたが、10月末をもちまして完了し、より快適に安心安全にご活用いただけるようリフレッシュしました。

「全館大規模耐震改修工事」期間中は、ご来場の皆様には大変ご迷惑をおかけ致しました。今後とも国立京都国際会館をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



今月の表紙は本館と冬景色をイメージしたペーパークラフトです。日本庭園側の各会場からは、日本庭園と宝が池の四季それぞれの風景をお楽しみいただけます。

表紙制作：金甫盈（キム・ボヨン）  
京都精華大学  
マンガ学部アニメーション学科 講師

ICC Kyoto  
Kyoto International Conference Center

国立京都国際会館

検索

© Kyoto International Conference Center. All right reserved.

編集発行 公益財団法人 国立京都国際会館  
住所 〒606-0001 京都左京区宝ヶ池  
TEL 075-705-1218  
FAX 075-705-1100  
E-mail com@icckyo.or.jp  
URL http://www.icckyo.or.jp/